

比較により新たな価値観に気付くことを通して、

『よりよい生活』を探究する家庭科の学習

I 家庭科研究の方向性

1 主題設定の理由

家庭科においては、児童が日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて様々な解決方法を考え、計画を立てて実践することが大切です。その結果を評価・改善し、更に家庭や地域で実践するなどの一連の学習過程の中で「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせながら、課題の解決に向けて自分なりに考え、表現するなどして資質・能力を身に付ける学びも重要になります。

これまでの本校の研究では、実践的・体験的な活動及び言語活動の充実による課題解決を通して、家庭や地域に積極的に関わる態度の育成を目指してきました。日常生活から課題を設定する必要感や次の課題への意欲が高まった一方で、知識及び技能を活用して課題を解決する力の育成や、家庭において継続的に実践することへの課題が残りました。継続的な実践に至らなかった一因は、日常生活の営みを断片的に切り取った題材構成にあると考えられます。家庭生活において、日常生活の営みは全てが相互に関連し合っていることから、その関連性に目を向け、日常生活の営み方を工夫し続けたいような題材構成の工夫が必要だと考えました。

全体研究主題では、「探究する子供を育てる教育活動の創造」をテーマとしています。家庭科における探究の姿として、「家庭科で身に付けた力を家庭生活で活用し、発展・応用させ工夫し続けること」と押さえました。

そこで、研究主題を「比較により新たな価値観に気付くことを通して、よりよい生活を探究する家庭科の学習」と設定しました。「比較により新たな価値観に気付く」とは、複数の生活事象において、「おいしい」「心地よい」などの視点を設けて比較することにより、児童が家庭及び地域の生活の営まれ方や特性に気付き、自分にとっての「よりよい」と感じる価値観を見いだす学習を表します。「よりよい生活を探究する」とは、知識及び技能を獲得する過程において、よりよいと感じる生活の在り方を徐々に変化させ、高めていくことを表しています。「よりよい生活」とは、知識及び技能を活用して営む家庭生活の中で、形や定義がなく、よいと感じる尺度が個別に異なる生活であり、家庭科の題材全体を通して常に求めていくものです。

2 目指す児童の姿とその具体

- 家庭及び地域の生活に主体的に関わり、「よりよい生活」について考える児童
- 家庭科で身に付けた知識及び技能を、家庭及び地域での実践において活用し、定着させ、高め続ける児童

「家庭及び地域の生活に主体的に関わり」とは、家庭科の学習の中で、自分の家庭及び地域の生活を想起しながら学習することを指します。「『よりよい生活』について考える」とは、家族及び地域の人々が営む家庭及び社会の中で、便利さ、快適さ、質の高さ、など自分にとって価値が高いと感じるものを追究することです。「家庭及び地域での実践において活用し」とは、教師が活用場を設定しなくとも、児童が自ら実践したいという意欲で家庭及び地域で実践することを表します。「定着させ、高め続ける」とは、家庭科で身に付けた知識及び技能を活用し続けることで定着させ、「よりよい生活」に適したものと発展させていくことを表します。

II 研究内容の具体

1 「よりよい生活」を見付け出すための比較を軸にした題材構成の工夫

児童にとって日常生活の営みは、育ってきた家庭及び地域そのものを示し、児童自身が生活の営みを選択していないため、自己の家庭及び地域の環境を見つめるだけでは、「よりよい生活」に対する自分の考えの根拠に気付きにくいと考えます。自分が目指す「よりよい生活」にはどの視点が関わるのかを、他者との比較や科学的根拠により明らかにしていくことで、「よりよい生活」を見付けることができると考え、2つの型を設定しました。

○実践的・体験的活動→科学的理解型

児童にとって、経験が多くない日常生活の営みに関連する題材において、実践的・体験的活動の繰り返しにより他者の生活との比較を軸とした題材構成にしました。それらの活動の中で、活動を通して科学的な理解につなげました。

○科学的理解→実践的・体験的活動型

児童にとって、経験が多いと考えられる日常生活の営みについては、学習過程において、科学的根拠に結び付けられるような実験や、数値及びグラフなどのデータを取り入れたりしながら、自己の経験と比較して学びを深める題材構成表にしました。

2 「よりよい生活」の追究を促進する指導の工夫

児童が「よりよい生活」を追究するためには、生活の営みの意味を理解し、それらの違いを比較して考えながら生活行為を見つめ、よりよいと感じる点が人によって違うことを理解することが大切です。そのためには、生活の営みに係る見方・考え方を細分化し、児童がよりよい生活を追究しやすくするための視点が必要だと考えました。視点同士の差異や関連について考える際には、科学的な理解や他者の考え方との比較が必要だと考え、「よりよい生活」の追究過程を整理する指導の工夫について研究を進めました。

○「よりよい生活」を支える視点の整理と見方・考え方との関連

【題材と見方・考え方との関連の一例（本校の教育課程より）】

学年	題材名	見方・考え方で特に重視するもの	視点
5年	生活を支えるお金と物	持続可能な社会の構築	値段、品質、必要性、生産地(者)、使い道、量・形状
6年	こんだてを工夫して	健康・快適・安全／持続可能な社会の構築	色どり、味の組み合わせ、費用、安全性、環境、旬

○「探究する活動」を支える情報の活用

- ・比較のための活用～ロイロノート・スクールの提出箱を利用した情報の比較
- ・知識・技能を補う活用～映像資料の充実
- ・科学的な理解のための活用～図や表・グラフによる科学的な情報の充実

3 「よりよい生活」を追究する意欲につなげる評価の工夫

家庭科の学習で身に付けた知識及び技能は、児童が自己の家庭において役立てようとすることで活用する機会が増え、定着が図られていきます。そのためには「よりよい生活」を追究しようとする意欲を高め、その態度を養うことが大切です。そこで「よりよい生活」について考えたことの自己評価や振り返りを行いました。

○「よりよい生活」を支える視点を可視化したポートフォリオ

- ・自己評価：視点についての自己評価、「よく考えた、まあまあ考えた、あまりよく考えていない、考えていない」の4段階で記録
- ・振り返り：これまでの自分と比較し、自覚した変化について記述

<3年次研究の重点>

- ・「よりよい生活」を見付け出すための比較を軸にした題材構成の工夫
- ・「よりよい生活」を追究する意欲につなげる評価の工夫

III 研究実践

6年生実践 『衣服を清潔に整えよう～冬の洗濯をプログラミング～』

実践のテーマ：衣服の整え方に対する考え方を比較することで、
衣服の手入れの仕方の工夫を理解する学習

1 研究授業のねらい

本題材は、B「衣生活（4）衣服の着用と手入れ」及びC「消費生活と環境（2）環境に配慮した生活」を基に構成しました。日常着の手入れについて、衣服を大切に扱い、手入れすることが必要であることを科学的に理解し、手入れの方法としての洗濯について、日常生活の中のプログラミング的思考に気付かせながら学びました。特に、衣服の手入れについては、衣服を長持ちさせるために欠かせないことを中心として扱い、適切な方法で行うことの必要性を科学的に考えたり、環境への影響について考えたりさせました。よりよい洗濯の方法について考える過程においては、汚れの種類や特徴、汚れの落とし方、衣服のダメージなどについて科学的に理解できるよう、情報を活用しながら学習を進めました。

2 題材の指導計画（13時間扱い）

段階	時間	学習活動（○）と主な学習資料（★）	『よりよい生活』を追究する児童の姿
生活経験の比較	①	<p>○洗濯について生活経験を振り返る。★事前調査結果のグラフ</p> <p>○体育着と体育帽子の汚れを見た目から予想する。</p> <p>★体育着と体育帽子（未着用，1回着用，2回着用）の実物</p> <p>○汚れに反応する薬品を用いて，汚れの場所を視覚的に確認し，汚れの中身について知る。</p> <p>★身体部位別季節別の皮脂量（表），★汗の男・女別，年代別変化（グラフ）</p> <p style="text-align: center;">衣服を清潔に整えよう～冬のよりよい洗濯について考えよう～</p> <p>問い① 衣服は繰り返し洗濯すると痛む。でも汚れは毎日付く。どうすれば清潔に整えられ，衣服にもよいのか。</p>	洗濯について，自己の経験と比較しながら，清潔に整えることを考えて課題を設定する姿
	②	<p>○外から付く汚れ（泥）と皮脂3g（ラー油）を落とす手洗い洗濯をする。（実験）</p> <p>○洗濯前後の様子を写真で比較し，考えを交流する。</p> <p>★洗濯の記録（テキストカード）</p> <p>○洗濯実験の結果から，洗濯について学びたいことを交流する。</p> <p>問い②（探究の問い） 手洗いの方が色々と工夫できそうだが，どう工夫するのがよりよい洗濯になるのだろうか。</p>	手洗いと洗濯機洗いについて比較しながら，重視したいと考える視点を見いだす姿
課題解決に向けた実践	③	<p>○洗濯の視点について，科学的な資料から自分なりの考えをもつ。</p> <p>★洗浄温度と洗浄力（グラフ），洗剤の量と汚れ落ちの関係（グラフ），すすぎと水の使用量（数値），汚水による環境への影響（図及び表），洗浄温度と衣服の傷み具合，水温の上昇と熱量の関係（グラフ）</p> <p>○よりよい洗濯についての視点を見だし，考えを交流する。</p>	科学的な資料を得て，洗濯についての視点に対する考えをもつ姿
解決方法の検討と計画・よりよい生活の追究	④（本時）	<p>○手洗い洗濯における「洗う」，「しぼる」，「すすぐ・しぼる」の段階について，重視したい視点をもとに，洗濯の計画を立て，交流し合う。</p> <p>★ロイロノート・スクールのアンケート結果（時間，洗剤量，温度などの考えを可視化した棒グラフ）</p> <p>○友達の考えを聞き，再び計画について見直す。</p> <p>★ロイロノート・スクールの視点のアンケート結果（棒グラフ）</p> <p style="text-align: center;">衣服を清潔に整えるには，洗濯で重視する視点を考慮しながら汚れや整え方を組み立てて考える。</p>	友達と自分の洗濯に対する考え方を比較しながら，家庭生活における洗濯の営み方を追究する姿

3 本時の学習

(1) 本時の目標

- ・日常着の手入れと環境に及ぼす影響考えながら手入れの実践計画を考え、実践を評価・改善して工夫したり、考えたことを分かりやすく表現したりしている。(思考・判断・表現)
- ・生活をよりよくしようと、衣服の手入れについて工夫し実践しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 本時の展開 (4時間扱いの4時間目)

学習内容と主な学習活動	研究との関わり・留意点
1 洗濯の視点と資料を振り返る。 「洗濯には、汚れを落とす・環境・洗剤・水量・水温・洗い方・長持ちの視点があった。」 「それぞれの視点について、利点と欠点は関連し合っていた。」 2 課題を確認し、解決の見通しをもつ。 ----- 洗濯の組み立て方を工夫しよう。	○科学的な理解のための情報の活用 研究視点2 ○科学的な理解から実践的・体験的活動へとつなげる題材構成 研究視点1 ・科学的な情報を活用しながら、洗濯をプログラムする実践的活動を行う。
3 写真やグラフなどの情報を基に、洗い方の工夫を考える。 「汚れを確実に落としたいので、水温を上げたい。」 「汚れは落としたいが環境への負荷を減らしたいので、水温をあまり高くしすぎないようにしたい。」 4 「洗う」、「しぼる」、「すすぐ」の3つの段階別に、時間や手順、温度や量などについて考えを交流し合う。 【洗う】 ・長く洗っても汚れ落ちは変わらない。 ・高い水温で洗うと汚れはよく落ちるが、色落ちしたり、エネルギー量が増えるなど環境への負荷が掛かったりする。 【しぼる】 ・しぼり方が弱いと衣服から水分が抜けにくい。 ・しぼり方が強いと衣服が型崩れする。 【すすぐ】 ・ためすぎをすると水の使用量を抑えられる。 ・すすぎ方が足りないと、衣服に洗剤が残ってしまい、衣服が変色しやすくなる。 5 友達の考えを聞き、再び計画について見直す。 6 洗濯のプログラムについて、視点を基に考えを深める。 7 アンケートの結果から、よりよい洗濯についてまとめをする。	○探究を促進させる情報の比較 研究視点2  <p>時間、洗剤量、温度などの考えを可視化したアンケート結果の棒グラフ</p> ・ロイロノート・スクールのアンケート機能を用いて、洗濯の視点の中で、重視した視点を回答させる。  <p>重視した視点のアンケート結果</p>
衣服を清潔に整えるには、洗濯で重視する視点を考慮しながら汚れや整え方を組み立てて考える。	
8 本時の学習を振り返る。 ○視点についての自己評価と振り返りを書く。 <振り返りの視点> ①個人で洗濯の仕方を考えるときに重視した点 ②友達の考えを聞いて思ったこと ③よりよい洗濯にするための方法	○自己評価と振り返りを活用した評価の工夫 研究視点3 日常着の手入れと環境に及ぼす影響考えながら手入れの実践計画を考え、実践を評価・改善して工夫したり、考えたことをわかりやすく表現したりしている。(思考・判断・表現) 生活をよりよくしようと、衣服の手入れについて工夫し、実践しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)【ワークシート】

◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

- 洗濯の視点についての考えを比較し、よりよい洗濯の方法を探究しようとする児童の姿。

4 授業の実際

「よりよい生活」を見付け出すための比較を軸にした題材構成の工夫

事前調査の結果から、洗濯の場合、機械洗いと手洗い共に、児童の生活経験は比較的高いと言えたので、日常の営みに根拠を見だし、科学的な理解につなげる資料を多く取り入れた以下の題材構成（科学的理解→実践的・体験的活動型）にしました。学習過程においては、衣服に付く汚れについて、見えないものについて薬品を用いて可視化（右写真）したり、数値（表1）を用いて理解したりできるようにしました。表やグラフの解釈の場面では、グラフや表の読み取りの技能に差が出ないように配慮しました。

また、洗濯については、洗剤を用いると汚れが落ちるとい生活経験だけでなく、洗剤を用いた弊害について目を向けたり、適量について体験的に理解したりできるような構成にしました。

生活経験と科学的な根拠を繰り返す構成で題材を構成することで、児童はよりよい洗濯とは何かを考えながら、家庭生活での洗濯を見直そうとするようになりました。

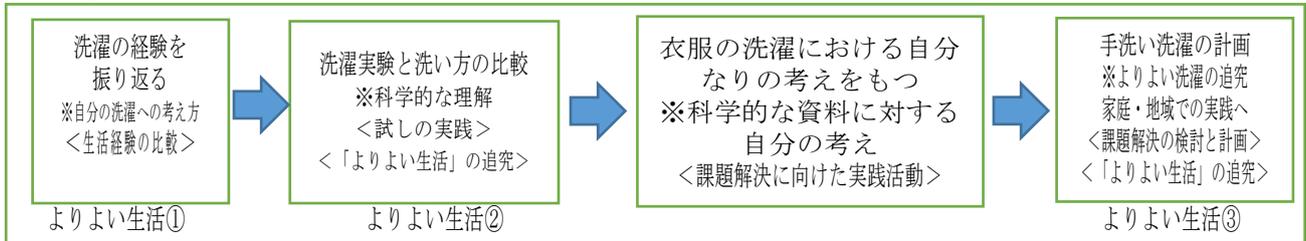


【衣服に付く汚れを可視化した
演示実験の結果（写真）】

身体部位	胸	肩	背	くび	わき	腹	腰	大腿
夏	0.14	0.11	0.35	0.39	0.06	0.08	0.11	0.06
冬	0.59	1.01	1.41	1.61	0.46	0.18	0.35	0.15

【衣服に付く汚れの季節別数値（表1）】

＜題材構成＞



「よりよい生活」を追究する意欲につなげる評価の工夫

①（振り返り）
 洗剤を一番にゆわきました。なぜなら、洗剤をエタノール、水の量をエタノールでも洗い方（服のこすり方）を考えなければ、汚れは落ちないから。そして、こすりすぎても服がいたむし、洗剤を使いすぎても、環境がよくなるので、洗剤の洗い方、こすりの方法、水の量、環境、水の温度に、絶対に気を付けていくべきだと

②（振り返り）
 今日、たっさんのグラフを月にしてみて、一番重要なのは、洗剤の量だと思いました。私の癖はあまり洗剤のことを考えないで、たっさん使っていた今日、洗ったシャツをみると、汚れがのこっていて、しわくちゃで、あまりきれいになっていませんでした。グラフをみると洗剤の量は、シャツをいたませ、環境の破壊にもつながることがわかりました。絶対に全員のことに気を付ける必要がある中で、洗剤の量だと思いました。

③（振り返り）
 今日私は、私にとって正しいことではないということがわかりました。今日を振り返ると、私は、洗剤を入れたら、入るほど汚水があると思、て、洗剤を洗たくには、洗剤の量、洗い方、こすりの方法、水の量、環境、水の温度、全体を考えたければ、汚れは落ちると思、ておりました。今日、少し、自分が思、ていることと違う意見があったのですが、1人1人の考えは、全部を、とて、できるものでした。なので、これから洗たくをするときには、服の素材に合った洗い方を、し、汚れを落とすだけでなく、環境の目標、をも、洗、い方をエタノールと、

A児の振り返りの記述から、洗濯に対する自分の考え方が変化したことが分かります。第2時では、今までの生活経験から、汚れ落ちのためには洗剤を多く用いることや、洗い方を重視したことが分かりました。第3時には、科学的な資料を得たことで、洗濯における洗剤の使用量という視点と汚水の排水による環境負荷に目を向けたことが分かります。第4時には、洗濯に対しての生活経験と科学的資料から自分が得た知識や洗濯に対する考えと、友達の考えが異なることに目を向けていることや、洗濯で重視したい視点についての考えは異なるが、どの考え方も理解できるという思いを持ちました。

目的に応じた洗濯について総合的に考えることで、汚れ落ちにこだわらず、よりよい衣服の整え方ができるという考えにつながりました。日常生活においても衣服をより大切に整えることを意識しながら、洗濯に関わる様々な視点を考慮して、整え方を工夫しようとする学びとなりました。

【A児の振り返り①第2時、②第3時、③第4時（本時）】

IV 3年次研究の成果と課題

3年次研究では、『よりよい生活』を見付け出すための比較を軸にした題材構成の工夫』『よりよい生活』を追究する意欲につなげる評価の工夫」を重点として研究を進めました。

1 研究の成果

- 「よりよい生活」を追究する過程において、児童自身が取り入れたいと考えた視点を他者の考えと比較することにより、児童は生活に対する考え方が一人一人異なることに気づき、どの考え方にも良さがあることを理解しました。
- 科学的資料を活用して学習を進めたことで、日常生活における営みの根拠を科学的に理解したり、生活経験による結果と比較したりすることが可能になり、児童の家庭生活において試したいという意欲につながりました。
- 振り返りとして、「よりよい生活」の視点に対する考えの変化をポートフォリオ形式で蓄積したことにより、児童は、自分の視点に対する考え方の理由を自覚しやすくなりました。

2 今後の課題

- 事前調査の結果から、日常生活において経験が多いと言える題材については、日常生活の営みの根拠となるような科学的な理解につながる資料を用いました。科学的な資料の扱いについては、図やグラフなどを読み取るために、他教科における知識及び技能の活用が多く求められるため、読み取った内容に対して共通理解を図る時間が必要になります。また、中学校及び高等学校の学習内容との関連を図り、科学的な資料を厳選して活用することが重要であると考えます。このことから、科学的な資料として、何を活用すべきであるのかを吟味する必要があります。
- 「よりよい生活」という実態のないものに対する児童の考え方を整理するために、視点を可視化したり、振り返りで「よりよい生活」に対する考えを明らかにしたりしました。一人一人がよいと感じる生活の在り方は異なるため、知識や技能として獲得した学習内容が、日常生活の場面において「よりよい」と捉えられず、生かされないこともあることが分かりました。

V 参考文献

- 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 家庭編 文部科学省 東洋館出版社平成29年7月
- 洗剤と洗淨の科学 中西茂子著 株式会社コロナ社 平成19年6月
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 家庭 令和2年6月
- 生活を科学し、実践する力を育てる授業づくり 子どもがいきる家庭科 吉原崇恵編著 開隆堂 平成25年6月
- コンピテンシー・ベイスの家庭科カリキュラム 鈴木明子編著 東洋館出版社 令和元年7月
- 小学校家庭科 資質・能力を育む学習指導と評価の工夫 筒井 恭子編著 東洋館出版社 令和2年10月
- ヤマ場をおさえる学習評価 小学校 石井 英真・鈴木 秀幸編著 図書文化社 令和3年7月